

平成 20 年 7 月 18 日

各 位

会 社 名 東 洋 合 成 工 業 株 式 会 社  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 木 村 正 輝

## 労働安全マネジメントシステム（OSHMS）の全社導入について

平成 19 年 11 月 13 日 10 時 20 分頃に発生いたしました当社千葉工場感光材第 2 工場における火災事故以来、当社では、経営陣、従業員一同、安全対策に尽力しております。

事故以前にも、当社ではヒヤリハット、安全パトロール、作業環境測定、教育・啓蒙活動など、安全対策に尽力してまいりました。しかしながら、将来に渡り、安全・安心な操業を行うためには、継続的に安全の PDCA サイクルが回ることが重要であり、潜在的危険性を減少させていくことが課題となります。そこで、当社では全社的に労働安全マネジメントシステムを導入し、事業所ごとに運用していくことを決定しました。

当社は、これら活動を通し、二度とこのような事故を起こさぬよう、全社員一丸となって安全管理を徹底し、再発防止に取組み、信頼回復に努める所存であります。

### 記

#### 1. 労働安全マネジメントシステム（OSHMS）について

##### ① 労働安全マネジメントシステムとは？

- OSHMS は、『Occupational Safety & Health Management System』の略で、事業所における安全衛生水準の向上を図ることを目的として、計画的かつ継続的に安全衛生管理を主体的に推進するためのシステムです。
- 労働安全衛生マネジメントシステムには、適用される関連法規制を遵守しながら、継続的に組織の労働安全衛生管理の状況を改善していくためのプロセスが組み込まれています。
- 平成 11 年 4 月に当時の労働省（現・厚生労働省）から「労働安全衛生マネジメントに関する指針」が告示され、事業者が労働安全衛生マネジメントシステムを構築して行う自主的活動の促進を図ることとされています。

##### ② 導入目的

- 労働安全マネジメントシステム安全衛生活動を通して、労働災害の潜在的危険性を低減するため、PDCA が回る仕組みをつくり、職場環境及び安全衛生の向上を促進する体制を確立します。

##### ③ 労働安全衛生マネジメントシステムの特徴

- PDCA サイクル構造の自律的システム

- 手順化、明文化および記録化
- 危険性又は有害性等の調査およびその結果に基づく措置
- 全社的な推進体制

#### ④ 期待される効果

- 「大規模製造業における安全管理体制等に係る自主点検（対象：原則、労働者数500人以上の約2,000の事業場）」（平成16年2月 厚生労働省発表）によると、労働安全衛生マネジメントシステムを運用、構築中、あるいは設備・作業の危険有害要因のリスク評価を実施している事業場は、取組みを実施していない事業場に比べて、災害発生率（年千人率）が3割以上低いという結果が出ています。

## 2. 全社運用開始時期

平成20年4月

市川工場は平成18年から運用を開始しております。

## 3. 運用場所

千葉工場	（所在：千葉県香取郡東庄町宮野台1-51）
市川工場	（所在：千葉縣市川市上妙典1603番地）
高浜油槽所	（所在：千葉縣市川市高浜町7）
感光材研究所	（所在：千葉県印旛郡印旛村若萩4-2-1）

## 4. 今期の運用

### ① 全社ヒアリングについて

- 2008年3月までに、上記全部署でリスクの洗い出しを行い、危険と思われる作業と災害リスクを洗い出し、当社環境安全部にて、現場確認と評価を行いました。

### ② リスクへの対応

- 事故以来、全社で重大・軽微含む186件のリスクを洗い出し、運用を改善しております。特にリスクが大きいと思われる133件については設備投資の予算化を終え、今期中（平成20年4月～平成21年3月）に総額4億5200万円を安全対策として投資する計画です。

### ③ 今後の運用について

- 従業員の気づいたリスクは職場安全衛生会議で随時取り上げ、改善を図ってまいります。緊急度の高いものは、即時に対策を行います。その他リスクの集計および改善は月次で、設備投資が必要なものは年次で集計し、投資計画に反映させてまいります。今後、運用定着化と事故を未然に防止して参ります。

以上

<問い合わせ先>

東洋合成工業株式会社  
経営企画部 広報/IR担当

047-327-8034